



肺炎球菌ワクチンについて

4月22日（金） 院内において、
「肺炎球菌ワクチン」「予防接種の広域化」について講演会を開催しました。

講師 啓心会病院 副院長 古賀 英之
医事課係長 末岡 浩一

高齢者の肺炎

日常でかかる肺炎は、主に細菌やウイルスなどが肺に入り込んで起こる肺の炎症です。肺炎の原因となる細菌やウイルスは、人の体や日常生活に存在します。

我が国の疾患別死亡者数の第三位が肺炎であり、高齢者（80歳以上）における死亡原因の第一位が肺炎です。

<高齢者肺炎の特徴は？>

- 一般的な肺炎の症状には咳嗽（せきのこと）、喀痰（たんのこと）、発熱、胸痛、呼吸苦などがあります。高齢者では**咳嗽、発熱の症状が少ない**とされています。
- 肺炎を見逃さないためには、
 - ・呼吸困難がないか
 - ・脱水がないか（舌の渇き）
 - ・痩せてきてないか（食欲不振）
 - ・ぼんやりしてないか（意識レベル低下）

高齢者は基礎疾患を持っている方も多くかかると重症化しやすいといわれています。かからないようにする予防が大事です。

<肺炎の予防法>

普段の生活の中でできること

- ・細菌やウイルスが体に入り込まないようにする（うがい、手洗い、マスクなど）
- ・抵抗力をつける（規則正しい生活、禁煙、基礎疾患がある方はその病気の治療など）

医療機関でできること

- ・ワクチン接種

肺炎球菌ワクチン

肺炎で一番多い病原菌は肺炎球菌です。肺炎球菌性肺炎は重症化しやすいといわれています。その肺炎球菌に対するワクチンが、**肺炎球菌ワクチン**です。また、インフルエンザにかかると、肺炎を起こしやすくなるため、**肺炎球菌ワクチン**と**インフルエンザワクチン**を併用することで、予防効果は上がります。



肺炎球菌ワクチンには、13価の「プレベナー」と23価の「ニューモバックス」の2種類があり、公的補助が受けられるものは「ニューモバックス」です。

補助の対象者は65歳、70歳、75歳・・・（5歳毎）・・・100歳以上（60歳～65歳未満の方でも心臓や腎臓、呼吸器に重い病気がある方も対象です）

【注意事項】

上記に該当する方でも、すでに任意接種等で23価ワクチンを接種したことがある方は対象外です。

現時点で公的補助の対象ではありませんが、長期的な免疫を獲得できるプレベナーと両方接種することで、予防効果が上がると言われています。

※同時接種は出来ません。期間を空ける必要があります。

予防接種広域化

予防接種広域化とは？

予防接種法に定められている予防接種は、市町村事業として実施されています。このため、予防接種対象者は、かかりつけ医等が住所地以外の市町村にある場合や住所地以外の病院等に入院されている場合には、予防接種を受けることができません。しかし、身体状況を日頃から把握されているかかりつけ医による予防接種を推進し、予防接種機会の拡大を図るために行われるものです。

自己負担額は市町村により異なります。

【注意事項】

- ・接種希望される医療機関が「定期予防接種広域化実施医療機関」であるか確認する。
- ・各医療機関で、実施できる予防接種が異なります。確認してください。
- ・定期予防接種広域化実施医療機関の取り扱いは、各都道府県で異なります。
- ・県外の場合、償還払いとなり事前に住所地の各役所の窓口で申請が必要です。